

Digital R/F

コンパクト設計と容易な操作性, 内視鏡室に最適 FLEXAVISION FD Package

FLEXAVISION

II. デジタル専用パッケージ
FD Package

USERS'
VOICE

生長会 府中病院様 (大阪府)



外科・消化器センター部長
土細工 利夫 先生



技師長
山中 洋和 先生



尾田 裕司 先生

内 視鏡室拡張による専用機増設。 コンパクトで誰でも触れることを考慮。

新館増築による内視鏡室拡張のため、内視鏡専用機を入れ検査を増やしていこうということになったのです。それで、こういうコンパクトで誰でも触れる装置を選びました。具体的には、頭・足側の向きが検査により異なるのでX線管球の移動範囲が広いこと、ストレッチャー移動のケースが多く撮影台の上下動は必須だったこと、自動現像機の設置場所や暗室の確保が困難だったことからFLEXAVISION FD Package(昇降機能付)が最適と思われました。

E RCPの検査数が大幅増加。 内視鏡専用機導入は正解。

外科・消化器センターという診療科名からもわかるように、消化器系に力を入れています。内視鏡専用機を設けたことで大腸内視鏡検査を透視台と切り離して考えられるようになり、ERCPの他院からの受け入れ態勢が整いました。その結果ERCPが19年度8月で2件だったのに対して10月は13件と増えました。ERCPの他ENBDやPEGなどで、内視鏡プラス透視という形で使っているのが主です。内視鏡専用機を入れて正解でした。

内 視鏡検査に最適なコンパクト設計。 皆が使える容易な操作性。

内視鏡検査というのはコンパクトな透視台が必要ではないかと思います。この装置は天板周りがシンプルなので、使い勝手がいい。内視鏡検査はほとんど固定された検査なので、天板が固定式の方



が使いやすい。装置の周りに機材を置いても邪魔にならないし、障害物に配慮しなくてもよいのでスピーディーな検査が行えます。内視鏡の検査に対してはこれ以上のいいものはないと思います。操作性も問題ありません。だから、本当にすぐスタッフが操作を覚えられました。記号を見てそのまま、「あっ、これはこれだな。」ということがわかります。内視鏡検査時の透視台操作は技師が行うのですが、18名の技師全員が撮れるようにしています。天板横のベッドサイドコントローラも便利で、これは医師も使われています。(右写真)



患 者登録から終了まで流れがスムーズ。 使い勝手の非常に良いコンソール。

コンソールの操作も、使い勝手が非常に良く、日本語表示もわかりやすい。患者登録から終了までの流れがスムーズで、検査の設定や画像選択なども1画面で行える点などストレスを感じません。画像編集ボタンを押すと下に画像編集コマンドが出てすごく便利だと思います。患者名の入力も事前にできるし、登録方法も簡単です。検査中にプリントができ、細かい設定の必要もなく容易です。ERCPの術式を選択するとモニター表示が上下反転するモードを登録しているのですが、それも便利です。

鮮 鋭度とコントラストのある 高品質デジタル画像。

デジタル画像がきれいですね。島津伝統のモニター画像がすごくきれいなのも引き継いでおり、ちょっとピシッとしたような、鮮鋭度とコントラストがあります。体重が100kgを上回ると思われる患者さんの透視を行った時も、画像がシャープに出ていて驚きました。当院は画像サーバもあるのですがまだつないでいません。将来的にはネットワークにつないでフィルムレス化したいと思っています。

導入を
お考えの先生への
一言

コンパクト設計と固定式天板が内視鏡検査に最適、皆が使える操作性の高い装置です。斜入オプションがあれば整形領域の撮影も十分可能なので、撮影室を複数確保できない場合でも、自由度の高い機種として検討できます。ネットワークへの対応も可能で、院内サーバ等によりフィルムレス化が検討できます。